

# 社会福祉士ら 13日開設、月2回

## 「子ども食堂」 敦賀2カ所目

敦賀市内の社会福祉士らが県医療生活協同組合の協力を受け、子どもに無料で食事を提供する「子ども食堂『おひさま』」を9月13日、同市和久野に開設する。毎月2回開く予定で、運営メンバーは「子どもたちがくつろぎ、高齢者とも触れあえる場所になりたい」と話している。(青木伸方)



子ども食堂「おひさま」のオープン前に、カレーライスを親子に振る舞ったプレ企画＝23日、敦賀市和久野

## 地域の高齢者と交流も

市内では、市男女共同参画センターで食堂を開いている市民団体「こども食堂 青空」に次いで2カ所目。青空にボランティアで参加している社会福祉士の鈴木正代さん(65)＝同市公文名＝らが「地区ごとに食堂が一つずつできるのが理想」とする青空の理念に賛同し、栗野地区での食堂開設を模索。

鈴木さんが組合員となっている県医療生活協同組合に相談したところ、同市和久野のつるが生協診療所隣にある組合員ルーム「晴ればれ」を食堂として無償で使用できることになった。5月から組合員の仲間ら15人ほどでプロジェクトチームを立ち上げ準備してきた。

食堂で提供する料理の食材は地域住民から無償提供を受けたり、募金で購入。メニューは、青空に参加しパン教室を営む山口紀子さん(65)＝助生野＝を中心に考案。調理はボランティアで行う。第2、第4水曜日の午後2時からオープンし、夕食の提供は同6時ごろで、同7時(30分)に閉める。高校生まで食事は無料で、保護者は300円を募金してもらう。

8月23日には開設前のプレ企画が行われ、子どもたちや親子連れが参加体験しカレーライスなどを楽しみながら食べた。4歳の長女、1歳の長男と訪れた病院勤務の栗野貴代乃さん(41)＝御名＝は「夫が帰宅するまで1人で家事や育児をしているので、食堂は私たちの居場所になるかと思っ

て参加した」と話している。食堂場所の「晴ればれ」は日中は喫茶店や介護予防教室などが開かれ、地域のお年寄りらとも交流できる。運営責任者を務める鈴木さんは「高齢者や障害者にも食堂に来ていただき、子どもたちが社会を自然と理解することにつながる方がいい。希薄な関係になった地域をつなぐ一歩にしたい」と意気込んでいる。問い合わせは、おひさま＝0770(21)7020。